

談話室

創立 10 周年記念事業報告

坂田 亮

慶應大学理工学部*
〒223 横浜市港北区日吉 3-14-1

(1990年4月17日 受理)

The Report on the 10th Anniversary
of the Founding of the Surface
Science Society of Japan

Makoto SAKATA

Faculty of Science and Technology,
Keio University
3-14-1, Hiyoshi, Kouhoku-ku, Yokohama-shi 223

(Received April 17, 1990)

平成元年(1989年)は、当学会の創立10周年にあたり、表1に示す委員会により、記念事業が準備された。事業としては、国際シンポジウムと講演大会、記念式典、記念出版、特集号発行、論文賞設置と受賞者決定であった。国際シンポジウムは平成元年11月29～30日の両日早稲田大学大隈講堂にて開催された。この国際シンポジウムは、当学会の活力の一層の向上と海外との活発な学术交流を図るために計画されたもので、“表面”の本性を原子レベルで探っている内外の著名な研究者11名(本誌 Vol. 10, No. 5; Vol. 11, No. 3 p.195参照)を迎えて、それぞれの分野にて講演をしていただいた。

このシンポジウムは、企画された当初は、シンポジウムではなく、例年行っている講演大会に外国から2～3人を招待する程度にしか考えていなかった。ところが話が進むにつれ企画の内容は徐々に拡大し、遂に内外より11名を招待するという国際シンポジウムにまで膨れ上がった。このため、シンポジウムには750万円を用意せざるをえなくなった。またこの外に記念特集号発行のために310万円を、またその他の式典費等を含めて、総額1,170万円を準備する必要に迫られた。その内200万円は学会が拠出するので、残り970万円は集めねばならないこととなった。この目的のためと、学会全体の運営財務の健全化を計るために、運営財務委員会が設置された(表2参照)。しかしこの10周年事業に対しては多くの方々が危惧され、行く先は真暗であった。その上シン

表1 日本表面科学会創立10周年記念事業委員会

委員長:	坂田 亮
委員:	岩澤 康裕 国際シンポジウム
	福田 安生 10周年記念式典
	宮崎 栄三 記念出版
	杉井 清昌 会誌表面科学特集号の発行
	河津 璋 論文賞の設置
	上村揚一郎, 岡田 正和, 大坂 敏明
	大坪 孝至, 大野 清伍, 小西 文弥
	真下 正夫, 御園生 誠, 最上 明矩
	吉原 一紘

表2 運営財務委員会

顧問	清山 哲郎, 前田 正雄, 西澤 潤一
	菅野 卓雄
委員長	坂田 亮
副委員長	宮崎 栄三, 河津 璋
委員	榎本 祐嗣, 大坂 敏明, 大坪 孝至
	大野 清伍, 岡田 正和, 小西 文弥
	合志 陽一, 近沢 正敏, 馬場 宣良
	福田 安生, 木間 禎一, 御園生 誠
	最上 明矩, 吉原 一紘

ポジウムのテーマに片寄りがあり、内容が基礎的に過ぎるとのご批判もあった。そのようなもとの参加者を多くするには参加料を安くせねばならず、それでは、1,000万円を集めることは容易ではなくなる。このジレンマを解消する方法として募金をすることも考えられたが賛同がえられず、募金は沙汰止みとなった。そこで思案の末、“団体参加”という方法を考え出した。これは民間企業にお願いして、その企業から10人以内をひとまとめにして、一口20万円で団体登録してもらう方法である。これは企業側としては、寄付のように(寄付行為に対する)税金をとられることがなく、出し易く、また学会側は10人以内ひとまとめなので手数が少なく、しかも確実な収入源となるというメリットがある。これによれば、一般参加者をあてにせず、団体登録口数を50口(大体50社)集めればよいことになる。これがうまく集まれば個人会員は3万円(大学関係者は1.5万円)でよく、学生はさらに安くすることができ、参加人数が少なければ、学生を集めればよいことになる。こうして、運営財務委員、理事、編集委員、企画委員の諸先生方に1人何口かを集めて下さるよう、丁寧にお願いする徴をとばした。その結果、各先生方の大変なご努力の結果により、56社(約58口, 1,152万円)、個人参加132名、186万円)の応募をいただき、登録金額合計1,338万円となっ

* 現在、杏林大学

表 3 国際シンポジウム団体参加登録企業名

会 社 名	登録金額 (万単位)	会 社 名	登録金額 (万単位)	会 社 名	登録金額 (万単位)
トムソンジャパン(株)	20	帝人(株)大阪研究センター	20	新日本製鉄(第一技研)	20
東海カーボン(株)	20	NKK(株)	20	大日本印刷(株)	10
東京製鉄(株)	20	アルパックファイ	20	(株)日立製作所中研	20
花王(株)	20	(財)日本板硝子材料工学助成会	20	東ソー(株)	20
NTT基礎研究所	20	平和情報センター	20	日産ディーゼル工業	20
トヨタ自動車(株)	20	日本コココーラ(株)	30	(株)リガク	20
(株)松下電器産業	20	日本アイビーエム(株)	20	日本真空技術(株)	20
三菱金属(株)	20	三井鉱山(株)中研	5	古河電気工業(株)	10
日本酸素(株)	20	日本ゼオン(株)	10	(株)東芝ULSI研究所	20
田中貴金属工業(株)	20	昭和電工(株)	20	ソニー(株)中央研究所	20
エヌ・イーケムキャット(株)	20	“ ”	20	旭化成工業(株)	20
住友電気工業(株)	20	三井東圧化学(株)	10	富士通研究所	20
富士電気化学(株)	10	凸版印刷(株)	5	(有)イトウインターナショナル	20
徳山曹達(株)つくば研究所	10	丸文(株)	20	ダイセル(株)	20
三菱化成(株)	20	日電アネルバ(株)	18	(株)UBE	10
住友金属工業(株)研開本部	20	東芝セラミックス(株)	20	(株)神戸製鋼所	20
住友化学工業(株)	20	伯東(株)	20	日産自動車(株)	20
日本分光工業(株)	20	日本電子(株)	10	日本電気	14
(株)東レリサーチセンター	20	沖電気工業(株)	20	(財)泉科学技術振興財団	160

		入金予定額 (万単位)	入金額 (4/10 現在)
団体加入申し込み	56 社	11,720,000	11,520,000
個人参加申し込み	132 名		1,860,740
合 計			13,380,740

(未収金 20 万)

た(表3参照)。また、参加者数も推定で延べ約500~600人となった。これらは先程述べた各先生方、特に運営財務委員会の顧問の方々のご尽力によるものであり、この先生方に厚くお礼申し上げます。また岩澤実行委員長の捨身の活躍には、深甚の謝意を表します。また同委員長による講演大会(27~29日)には95件の講演数と推定延べ400人以上の参加者があった。

11月29日夜の記念式典とパーティーは福田実行委員長のもとで行なわれ、100名を越す参加者があった。記念特集号は杉井編集委員長のもとで立派な雑誌が発行された。また記念出版物は10冊、宮崎委員長と岡田委員のもとで順次つつがなく発行されてきた。さらに論文賞の設置と第1回日本表面科学会論文賞受賞者決定は河津委員長のもとで、とどこおりなく実行された。それぞれの委員長に深甚の謝意を表します。

最後に10周年事業全体の会計の報告をする。表4はシンポジウム支出(予算・決算)対比表。表5は10周

表 4 国際シンポジウム支出(予算・決算)対比

費 目	予 算	決 算	差引残高
接 待 費	2,950,000	2,678,540	271,460
印 刷 費	3,500,000	1,321,409	2,178,591
会 場 費	150,000	170,763	△20,763
会 議 費	100,000	288,334	△188,334
通 信 費	200,000	386,020	△186,020
アルバイト費	200,000	212,100	△12,100
消 耗 品 費	200,000	11,150	188,850
予 備 費	200,000	0	200,000
合 計	7,500,000	5,068,316	2,431,684

△印は赤字

年事業収・支(予算)と支出(決算)対比表。この中で10周年基金は学会側からの拠出金。表6は記念事業総収支・差引残高表。この表を要約すれば収入合計1,620万円、支出合計1,013万円、差引黒字額が607万円と

表 5 10 周年事業収入 (予算), 支出 (予算)・支出 (決算) 対比

	収 入 (予 算)			支 出		
	事業収入	10周年基金	計	予 算	決 算	予算—決算
国際シンポジウム	7,500,000		7,500,000	7,500,000	5,068,316	2,431,684
記念式典	200,000	300,000	500,000	500,000	458,629	41,371
記念出版		200,000	200,000	200,000	0	200,000
特集号	2,000,000	1,100,000	3,100,000	3,100,000	4,522,463	△1,422,463
論文賞			0	(通常会計)	0	0
諸経費		400,000	400,000	400,000	82,677	317,323
計	9,700,000	2,000,000	11,700,000	11,700,000	10,132,085	1,567,915

△印は赤字

表 6 10 周年記念事業総収支・差引残高

収入合計	16,193,729
団体加入 (56 社)	11,720,000
個人 (132 名)	1,860,740
利息	13,989
補助金 (早稲田大学より)	70,000
補助金 (学会より)	2,000,000
広告料 (シンポジウムプロシ ーディング)	103,000
広告料 (講演大会要旨集)	426,000
支出合計	10,132,085
差引残高	6,066,644

なった。この残高の内 200 万円は学会へ返納し、残り 400 万円余は社団法人化基金、国際交流基金、事務所 OA 化資金として使用する予定である。

お陰様で、望外の成功裡に 10 周年記念事業を終えることができた。ここに多くの関係者各位および学会事務の大角さんに深く感謝します。最後にシンポジウムでのスナップ写真を一葉載せて、しめくりとする。

